



平成22年(2010年) 3月2日発行

ふくしまファンクラブ

会報 第12号



①



②



③



④

- ①足場が外され、完成間近のベガ棟（奥）とアルタイル棟（手前）。
（2月21日撮影）
②ベガ棟内観。軸組工法による「木組みの家」です。吹抜けをもった総2階建て。
通し柱を多く使用し、最小の材料で立体を組むことを考え計画。
（設計：檜山延雄+まちづくり工房、施工：蛭田建築）
外見は小さく、中はたっぷりとした空間になっています。
③「貝泊コイコイ倶楽部」事務局長の蛭田一さん。
移住コンシェルジュとして、貝泊に田舎暮らしを希望する方の相談に応じている
ほか、各種体験事業に携わります。
④「星の森」の敷地にある看板。手作りのあたたかさを感じます。
（①②写真提供：まちづくり工房）

いわき市貝泊「星の森」 ふくしまの家

利用情報

今年4月から利用開始!

〈ベガ棟 3LDK〉

家族やグループなど

〈アルタイル棟 1DK〉

单身の方や、ご夫婦+子ども
などの小家族など

期間は1日～1週間程度
（ご相談に応じます。詳しくは
お問い合わせください。）

予約・お問い合わせは

貝泊コイコイ倶楽部「星の森・
ふくしまの家事務局」
電話：0246-68-3145
メール：kaze@peace.ocn.ne.jp
http://hoshinomori-fukushima
noie.kaidomari.net/
メールでの御予約はお名前・住
所・連絡先・希望日・人数をお
知らせ下さい。折り返し御連絡
いたします。電話予約も可。

今年度、県内5箇所で開催中の田舎暮らし体験住宅「ふくしまの家」。そのうちの1箇所、浜通りはいわき市の山間部、貝泊地区に整備された「星の森」を紹介いたします。

この住宅は、山村体験や都市との交流事業など、地域おこし活動に取組んでいる「貝泊コイコイ倶楽部」が整備。檜や杉などの福島県産の木材を使い、地元の大工さん、設計士さんなどの協力により建築しました。外構の石敷きなどは地域のボランティアの方が協力しており、地域の方々の想いが詰まった、木の香りあふれる住宅となりました。今後、庭にも整備される予定とのことです。

毎週日曜日に営業する農産物直売所「山ぼうしの家」、五つの体験ゾーンからなる、森林体験の森「山ぼうしの森」、イタリンの方が開設した「風の谷ブルーベリーファーム」、美味しい名水「耕土の清水」など、自然を生かしたスポットがあります。

また、「貝泊コイコイ倶楽部」で主催する稲作体験など、季節に応じた各種体験も可能。「星の森」は、そういった体験事業で地域の方と交流を深めたい方、また、田舎暮らしを真剣に考えている方にぜひ利用していただきたい施設です。

● 貝泊はこんな地域 ●

「貝泊コイコイ倶楽部」電話0246-68-3354(蛭田一事務局長)
お問い合わせ時間は19:00～22:00頃にお願いします。(不在の場合もあります)



ふくしま

味と技

大堀相馬焼

国の伝統的工芸品に指定されている「大堀相馬焼」。
 独自のなそのフォルムには長い歴史に基づく伝統が息づき、
 今でも多くの人を魅了しています。
 今回は、大堀相馬焼の魅力に迫ります。



味わいのあるお猪口と湯のみ

大堀相馬焼の歴史

「大堀相馬焼」は、福島県浜通り地方の「浪江町大堀地区」で作られています。約320年前に相馬藩士半

大堀相馬焼の

三大特徴

大堀相馬焼には、他の焼き物には見られない特徴があります。

1 青ヒビ

通常の焼き物で行われる「酸化」とは異なり、鉄分を含んだ釉薬を用いた「還元炎」として焼くために青みがかった鈍色の器の表面にヒビが入ります。このヒビに墨を落とし、ヒビを際立たせる手法で、一つとして同じヒビが入ることがありません。

2 走り駒

藩主相馬一族の家紋から「繋ぎ駒」「走り駒」が意匠となつています。相馬藩の神馬とも言われ、青ヒビに疾走する馬の絵が映えます。

3 二重焼

大きさの異なる2つの器を重ね合わせ焼き上げる手法で、熱いお湯を入れても持つことができ、入れたお湯が冷めにくいという利点があります。

今回お話を伺った、大堀相馬焼協同組合の半谷（はんがい）理事長



この三大特徴について、大堀相馬焼協同組合の半谷理事長からお話を伺いました。

「浪江町大堀地区の土が良質であったことで、他の地域の焼き物に比べて器の厚みを薄くすることができました。そのため、二重焼が生まれたとも言われています。」他の焼き物には見られない特徴ですので、是非お手にとつてその技法を体験してみてください。

「二重焼の大きな器から、小さな器の見えるのぞき窓がついていますが、その形

登り窯



が桜の花びらの形になっていきます。」見せていただくと、器が花びら型にくりぬかれています。「これが、輸出先のアメリカで“ハート”と受けとられ、人気を博しました。」盲目のピアニスト辻井伸行さんのホームステイ先にも置かれていたようで、先ごろ放送されたTV番組で、若き辻井さんが楽しそうに大堀相馬焼を手に取り姿を目にすることができました。



◆ 大堀相馬焼の祭典 「大せとまつり」◆

毎年5月1日～5日の期間で行われる年1回の「大」展示即売会。昨年は5日間でのべ3万人が訪れました。目玉は、なんと言っても通常価格の2割から5割引の大堀相馬焼の数々、窯元はこの日に新作を用意しお客様をお迎えします。このほかに、子どもから大人まで楽しめる出店も並びます。駐車場も用意され、3日～5日の3日間はJR常磐線浪江駅からのシャトルバスも予定されていますので、連休のご予定に是非ご一考を。

◆ 大堀相馬焼の 普及と今後 ◆

地元の小学生を中心に、焼き物に触れる機会を提供し、大堀相馬焼の普及啓発を進めている協同組合。地元小学校では卒業記念に大堀相馬焼を作成、秋に登り窯で焼き上げるそうです。子どもたちの中から将来の大堀相馬焼を受け継ぐ窯元

が誕生するかもしれません。また、それぞれの窯元も、従来の大堀相馬焼にとられない新しいカラーを出しています。伝統に裏打ちされた新たな大堀相馬焼もぜひ

ご覧ください。職人の心がこもった大堀相馬焼。青ヒビの入る時に発生する「ピーン」という貫入音が澄み切った心地よい音色で今日も浜通りの小

陶芸の杜おおぼりでは陶芸教室を実施しています。

「手びねり」「絵付け」とも5名様以上で要予約。オリジナルの大堀相馬焼にチャレンジしてみたいか？（手びねり体験500g1,260円）
双葉郡浪江町大字大堀字大堀37 TEL 0240-35-4917



浪江町観光情報

～大堀相馬焼のふるさと浪江町の観光スポットをご紹介します～



写真は「中国料理 長寿」（浪江駅前徒歩3分）

何事も馬九行久（うまいく） 「なみえ焼そば」

極太麺、もやし、豚肉、うまみたっぷり濃厚ソースで統一された浪江名物「なみえ焼そば」。普及拡大のため「浪江焼麺天国（なみえやきそばたいこく）」（詳しくは <http://namie-yakisoba.com/>）が建国されており、町内各所で味わうことができます。器は、本文でも取り上げた「大堀相馬焼」。運気の良くなる九頭の馬が描かれ、目でも舌でも楽しむことができます。



日本一海に近い酒蔵「鈴木酒造店」

天保年間創業の歴史ある酒蔵。太平洋眼前に迫る正真正銘「日本一海に近い酒蔵」。当然、漁業とのつながりも深く、大漁の祝い酒として生活の中に息づいています。
株式会社 鈴木酒造店
双葉郡浪江町請戸東向10
TEL: 0240-35-2337

さな町に鳴り響きます。
◆ プレゼント ◆

大堀相馬焼の湯のみをペ
アで5名様にプレゼントし

ます。今は、まだ完成していない湯のみで、これから「墨入れ」が行われます。写真（8ページ）の湯のみにどのように青ヒビが入るか、乞うご期待！



ふくしまをしる

識

ふくしま歴史探訪

秋月悌次郎（胤永）

日本一の学生

通称『北越潜行の詩』と呼ばれる漢詩があります。これは会津藩の公用方であり、戊辰戦争の終結、敗戦後の処理のために力を注いだ秋月悌次郎という人が詠んだ希代の絶唱です。この詩に込められた想いは今でも多くの人の心を揺さぶっています。

今回は県認定ツーリズムガイドの巖徳三さんの協力のもと、この詩の作者、秋月悌次郎（胤永）をご紹介します。



昌平坂学問所を出た後、藩命により全国遊学の旅に出て、長州や薩摩藩などを視察するとともに多くの人と交流を持ちましたが、後に、悌次郎や会津藩にとっても大きな存在となる長州藩の奥平謙輔（※1）ともこの旅で出会いました。

京都守護職の公用人

京都では安政の5カ国条約を勧許がないまま締結し開国に踏み切った幕府を倒し、外国を排除しようとする者らによる天誅事件などが相次いでいました。幕府は治安維持のため、桜田門外の変（※2）後、悪化していた幕府と水戸藩の関係修復に貢献し、將軍の信頼が厚かった会津藩主松平容保に1862年（文久2年）京都守護職を命じました。悌次郎は容保の公用人に登用されましたが、特に薩摩藩との連携により、討幕派の長州藩を都から排除した1863年（文久3年）、八月十八日の政変での活躍によって有名になりました。しかし一方では藩内での嫉妬を買ひ、翌年北海道斜里に左遷されてしまいました。

北越潜行の詩

悌次郎が斜里にいる間、薩長同盟の成立などにより討幕勢力と幕府の勢力は次第に逆転していきました。

※1 奥平謙輔（1841～1876）
長州藩士。明治維新後、重職に就くも新政府のやり方に反発、1876年（明治9年）前原一捉えの詩として、『北越潜行の詩』をモチーフにした七言絶句を残している。

※2 桜田門外の変（1860：安政7年）
幕府の大老井伊直弼を、水戸藩を脱藩した浪士たちが江戸城桜田門外で斬りつけ殺害した事件。

※3 有望な少年
奥平謙輔は秋月悌次郎の願いを聞き入れ、3人の青年を書生として預かった。うち1人は勉強が嫌になり脱走したが、2人の青年はその後大佐小川亮であり、もう一人は後の東京帝国大学総長の山川健次郎である。

1867年（慶應3年）、悌次郎は藩に呼び戻され京都に復帰しましたが、幕府側も会津藩も形勢を逆転することはできませんでした。悌次郎は戊辰戦争の幕引きのための交渉などにあたりましたが、戦争終結後は戦後処理のために裏方として奔走しています。謹慎を命じられていた猪苗代から僧侶に変装して抜け出し、越後にいた長州藩の参謀奥平謙輔に会い、藩主父子の助命と、会津の有望な少年（※3）の引受けと教育を嘆願したのでした。その帰途、旧越後街道にある東松峠から、戦火で荒れた会津盆地を眺めながら詠んだ七言絶句が『北越潜行の詩』です。国が荒れてしまった悲しみ、君主や肉親への

神のような人

越後から戻った後、終身禁固刑を受け獄舎を転々としましたが、1872年（明治5年）特赦を受け会津に帰りました。その後上京し教職についていましたが、1889年（明治23年）、66歳で熊本の第五高等学校教諭となりました。当時の同僚、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）は、教え子たちから好かれ、いつも柔和な悌次郎を「神のような人」と評しています。数多くの艱難辛苦を乗り越えた悌次郎の晩年は、優しさと温かさに包まれていたようです。



福島県認定ツーリズムガイド（※）の
 巖徳三（ほろいわ とくぞう）さんとゆかりの地を歩いてみました。

巖さん

秋月惺次郎詩碑

The image is a composite of two photographs. The top photograph shows a snowy landscape with a large, gnarled tree trunk and a stone marker. The bottom photograph shows a man in winter gear standing next to a large wooden sign with a map and Japanese text.

1

The photograph shows the exterior of the White Tiger Memorial Museum. The building is a long, low structure with a white facade and a dark roof. Large black Japanese characters are mounted on the wall, reading '白虎陳列館' (White Tiger Memorial Museum) and '白虎神社' (White Tiger Shrine). A sign on the right side of the building also reads '白虎陳列館'. In the foreground, there are several informational boards and a small shrine structure.

※福島県認定ツーリズムガイド: 一定のキャリアを持ち、一定の研修を受けたガイドの方のなかで、福島県ツーリズムガイド連絡協議会が行う認定試験に合格したガイド。現在自然系ガイドを中心に85名が活躍しています。



三春町立中郷小学校に設置された作品。
デザインは当時の児童さんが考えた。

日曜～土曜を表し、1週間明るく元気で生活できるようにという願いが込められている。



山田郁夫さん



藤田喬平美術館（宮城県松島町）の
作品展に出品した作品



東北6県のガラス作家展に出品した
「ゆり」をテーマにした作品

ふくしまに住む

Reason to Live in Fukushima

梅・桃・桜が一度に咲き競うことから名付けられたという「三春町」。国の天然記念物で、樹齢千年以上を誇る有名な「三春滝桜」は、開花のシーズンには多くの方が訪れます。そんな滝桜の近くに平成7年に移住され、ステンドグラス制作をされている山田郁夫（やまだいくお）さんをご紹介します。

移住に至るまで

山田さんは、神奈川県横浜須賀市出身。日本で最初に来たガラス工芸を教える専門学校「東京ガラス工芸研究所」を卒業後、ステンドグラス制作の会社に就職。各地を訪れていましたが、三春町の小学校を訪れた際、子供たちの純粋さが新鮮に見え、自然が残るこの地域に住みたいと思うようになり、町役場に相談。滝桜近くの養蚕農家を借りられることになり、蚕小屋を改修して2階をアトリエとし、三春町での生活がスタートしました。

全国各地の作品

山田さんは、福島県内では地元三春町の小学校、県立図書館、金山町の妖精美術館のほか、ホテルやレストランなどからも依頼があります。また、県内だけでなく、北海道小樽市の倉庫にも取り付けられている作品にも関わられたほか、青森県八戸市、石川県、東大阪市立図書館や、南は長崎県の遠藤周作記念館など、依頼があれば全国各地に作品を納入し、修復も行っています。もしかしたら、皆さんのお近くで山田さんの作品に出会えるかもしれません。

ガラスを楽しむ

作品の制作のほか、教室も開催されています。ガラスを正確に切る練習から始まり、2作目からは生徒さんの自由な発想に任せ、自宅用のステンドグラスやランプシェードを作る方もいるとのこと。また、これまで、県内の公民館などに出向いて小学生や父兄などを対象に、体験学習でペンダントやキーホルダーなどの製作を教えたりもしています。「ガラスの特性などを知れば、ガラスを身近に楽しむことができます。」と山田さんはおっしゃいます。予算や日時など、御相談

地域に暮らす

地元のガラス屋さんが開店してしまつたこともあり、近所の人などから依頼があれば窓ガラスの修理なども行っているそうです。また、山田さんは、桜の開花シーズンに合わせ、滝桜を見に訪れるお客さんのために、工房を臨時のショップに変身させ作品を展示販売するとともに、豆から挽いたコーヒーや甘酒を販売しており、地域を盛り上げていきたいと考えています。皆さんも、ぜひ、山田さんの作品と、滝桜を見に三春町にお出かけください。



●山田さんのアトリエ&滝桜情報●

アトリエ デコ 住所: 田村郡三春町大字滝字桜久保110
電話: 0247-62-8210 ホームページ: <http://www.atelier-deco.com/>

※このファンクラブ会報12号を持参された方に、甘酒又はコーヒーをお1人1杯サービス!!

(平成22年 花見シーズンの期間限定。アトリエの営業時間内に限ります。(時期により異なります))

※なお、滝桜については、平成22年4月から、観桜料(1日1人あたり300円・中学生以下無料)を御負担いただくこととなりました。(駐車料金は無料、協力金は廃止となります。)。観桜期間は、4月上旬から下旬の予定です。観桜料、開花時期等については、三春町観光協会(電話0247-62-3690)へ問合せいただくか、三春町のホームページ(<http://www.town.miharu.fukushima.jp/>)を御覧ください。



山田さんの作品「おやすみライト」。



山田さんのアトリエは滝桜から少し下ったところにあります。大駐車場から歩いて約100m左側です。

ファンクラブ 会員紹介コーナー

第4回目は、北海道の地で「あったかふくしま観光交流大使」として福島県のPRをしてくださった伊藤靖子さんにお話を伺いました。



真摯に語ってくださった伊藤さん

「ご出身は福島県ですか。はい。両親はふたりとも北海道の出身ですが、私は高校卒業まで郡山市で育ちました。大学進学を機に札幌に来了のですが、そのまゝ札幌で就職することとなり、現在も北海道朝日広告社という広告会社で働いています。

「あったかふくしま観光交流大使になったきっかけは。数年前に仕事の関係もあって、県の北海道事務所を訪ねた際、福島県のPRをしたいという話を熱く語った



北海道事務所の担当者と話す伊藤さん

「北海道から見た福島県の魅力は?」

「福島県も広いですが、北海道からみれば、コンパクトな地域に海、山、温泉、果物そして北海道より遙かに豊富な歴史資源があります。2泊か3泊福島県に旅行すれば、本当にいろいろなものを満喫することができます。

「今後こんなPRしたい」といったことはありませんか。

「北海道にはまだ、福島県についてあまりよく知らない人が多く、飛行機に乗って本当に短時間で行くことができることも知らない方もまだ多いです。これから機会をとらえて福島県の魅力を知っていただき、一人でも多くの方に訪ねていただけるよう頑張りたいです。福島県の方にも、北海道に遊びに来てほしいですね。」



北海道事務所の職員と

北海道人、福島県人両方の視点をお持ちの伊藤さん。「福島県はいろいろな魅力がコンパクトに詰まっているところ」という言葉が本当に印象的でした。今後もし引き続き福島県のPRをよろしく願っています。



ファンクラブ インフォメーション

ふくしまファンクラブ 会員規約改正のお知らせ (会員証有効期間の延長)

皆様が「ふくしまファンクラブ」に入会された後、後日、ファンクラブ会員証と会員規約、協賛店一覧などをお送りしておりますが、現在のところ、会員規約第6条では、有効期間が平成22年3月31日までになっております。

このたび、会員規約を改正し、会員証の有効期間を平成24年3月31日までとすることといたしました。現在の会員証は引き続きご使用になれますので、ご活用ください。

また、ファンクラブ協賛店には、順次ステッカーを店内に設置していただくこととしております。



さらに、転勤や異動の季節になってまいります。お引っ越しをされましたら、事務局へのご連絡も忘れずをお願いいたします。会報をお送りしても返送されるケースが増えております。御協力よろしく願いいたします。

ふるさと福島大交流フェア へのご来場ありがとうございました。

昨年12月、東京・池袋のサンシャインシティで「ふるさと福島大交流フェア」を開催しました。このフェアは、首都圏の皆様に福島県の魅力をPRするために開催しているもので、今回で3回目となります。

フェアでは、伝統工芸を直に体験できるコーナーや、ふくしまのおいしい食べものを扱うコーナーに多くのブースが出展し賑わいました。特設ステージでは、フラダンスショーや金管アンサンブルの演奏など多彩なイベントが行われ、来場者に楽しんでいただくとともに、俳優菅原文太さんと佐藤雄平知事のトークショーが行われ、菅原さんからは、「福島県は面白い人、骨のある人が多い」というお話がありました。



お知らせ

関西のふるさと暮らし相談窓口 **ふるさと暮らし情報センター(大阪)**が移転します。福島県のふるさと暮らしに関する資料も設置しておりますので、お近くの方でふるさと暮らしを検討されている方、ぜひ御利用ください。

〈**現所在地**〉大阪府大阪市北区梅田1丁目3-1-400

大阪駅前第1ビル4階

電話:06-6459-7761 FAX:06-6459-7759 (3/27まで)

〈**新所在地**〉大阪府大阪市中央区本町橋2番31号

シティプラザ大阪内1階

電話:06-4790-3000 FAX:06-4790-3111 (4/1から)

ふくしまのすてきなもん プレゼント

応募された方の中から抽選で

- ①大堀相馬焼の湯のみ(3ページ参照)をペアで5名様に、
- ②山田郁夫さん(6ページ参照)がワインボトルで作ったお皿を5名様にプレゼント!



湯のみ
(写真
は
墨
入
れ
前
の
も
の)



ボ
ト
ル
皿
(
イ
メ
ー
ジ
)

応募方法 はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、会員番号、御希望の品(湯のみもしくはボトル皿のどちらか一方)、今回の会報の感想などを明記し、下記のあて先へお送りください。

応募締切 3月26日(金) 必着

あて先 〒960-8670

福島県福島市杉妻町2-16

福島県観光交流課 ふくしまファンクラブ「プレゼント」係

*当選者の発表は賞品の発送に代えさせていただきます。お預かりした個人情報は、賞品の発送などファンクラブに関する事務以外に使用することはありません。福島県個人情報保護条例に基づき、個人情報の目的外利用はいたしません。